

アニメ・マンガ学部での授業や生活は、

ホントのところどうなの？

学生たちが本音で話してくれました！

# ふるまちアカデミー THE★談会



●キャラクターデザイン分野  
小林 萌奈心(2年)  
新潟県 北越高等学校 出身

●アニメーション分野  
枝村 悠希(3年)  
新潟県 新津高等学校 出身

●キャラクターデザイン分野  
鈴木 雄太(1年)  
福島県 尚志高等学校 出身

●マンガ分野  
榎本 愛子(2年)  
新潟県 開志学園高等学校 出身

※学年は取材時(2024年3月現在)のものです。

## 少人数授業で、先生との距離も近い！

——皆さんはなぜアニメ・マンガ学部を選んだのですか？

**枝村**：僕は昔から絵を描くことが好きだったので、絵を学べる学校に行きたいという考えが先にありました。しかし絵を描く職業は「安定」しないという印象があったので、大学卒業の資格を取得できる開志専門職大学が将来的にも良いと思い、受験を決めました。

**小林**：私も同じく絵を描くことが好きで、ただこれと言った職業があるわけでもありませんでした。将来、何をするのか、できるのかわからないなら、まずは好きなことを極めて、それが1つの武器になればと思い、開志専門職大学を選びました。

**榎本**：私は高校でマンガの授業があったので、卒業後も学び続けたいという思いがありました。高校のときには専門学校に進学するのかなと思っていたのですが、ちょうど3年生になるときに開志専門職大学アニメ・マンガ学部ができたことを知り、大学のほうが良いと思って進学しました。

**鈴木**：絵を描くのが好きで、他の大学や専門学校などを比較検討したものの地元だとあまり学べる学校がなく、4年

間、時間をかけて学んでいけることに一番の魅力を感じて進学を決めました。

——入学前と入学後では、印象が変わりましたか？

**小林**：大学というドラマで観るようなイメージしかなかったのですが、入学してみたら、大講義室がドンとあるような大学とは印象が違うなと思いました。空き時間には空いている教室で友達と絵を描いたり、お菓子を食べたり、話したりしていて、ラフで楽しいなって感じています。

**枝村**：大学という大教室で真面目に話を聞くような、少し堅いイメージでした。でも入学してみると、高校と変わらないくらい的人数で授業を受けていて、そこは意外でした。それから大学生はけっこう遊んでいるようなイメージもあったのですが、意外としっかり課題がありましたね。もうちょっと遊べると思っていました(笑)

**鈴木**：僕は逆に、授業課題などが思ったより少ないなと感じました。毎日課題に追われるのかなと思っていたのですが、それほど多くない印象です(笑)

**榎本**：私は、アニメ・マンガ以外の授業もけっこうあるなという印象を持っています。その授業も思ったよりも楽し



空き教室で友達と絵を描いたり、話したり。ラフで楽しいなど感じています



いつかアニメのクレジットに、名前を載せられたら理想です



先生との距離の近さや相談のしやすさがいいですね



課題に追われるかと思っていたけど、それほど多くない印象です

かったです。それと、大学のイメージと比べると少人数授業なので、高校のクラスの雰囲気似ている感じがありました。

——アニメ・マンガ学部の良いところを教えてください。

**小林:** 絵を描く授業ばかりではなく、美術史やコンテンツ全体の話や、心理学などいろいろな授業があり、幅広く知識を得ることができます。そういった講義などの授業から、新しい発想が生まれることもありました。大学は研究をする場所だと思うので、幅広く知識を得られていいと思います。

**榎本:** 私は、先生との距離が近いと感じています。マンガの同人誌即売会で、先生のブースの隣で売り子をするようなことは、他の大学だとあまりない光景なのかなと思います。そういった距離の近さや相談のしやすさがいいですね。

**鈴木:** 優しい先輩が多いです(笑)

**枝村:** 僕は話が合う友達が多いところや、目指す道が一緒なのがいいなと思っています。絵に関しても、友達にアドバイスを求めたり、意見を交わしたりと、お互いに切磋琢磨しています。

——印象深い授業はありましたか？

**小林:** アニメ・マンガ学部ならではの授業だなと思って好きだったのは、ライフドローイングの授業です。モデルをするのも、いろいろな方向から見て描くのも楽しかったです。1日10枚くらいは描いていたので、人体を描くのが苦手な私でも、身体の自然な動きを意識して描けるようになりました。

**枝村:** 2年次の「物語芸術workshopⅡ(実写映画制作)」がすごく楽しかったです。グループに分かれて脚本から演技、撮影、編集、演出などを学生ですべて行いました。構図やライティングなど絵に活かせる学びも多く、グループワークもトレーニングにもなったと思います。

**榎本:** 「日本語コミュニケーション」の授業が印象に残っています。毎週400字程度の文章を書き続けたり、発表をしたりと、勉強になりました。文章は毎回、先生に添削してもらえたので、だいぶ書けるようになりました。

休憩時間はキャンパス周辺でスイーツ巡り!?

——次にキャンパスライフについてお聞きします。皆さんはサークルに入っていますか？

**枝村:** 僕はいろいろ入っています。主なものとしては、漫画研究会と音楽サークルのBONDYですね。

**榎本:** 私も漫画研究会に所属していて、今ちょうど同人誌のβ切間近で、絶賛大変なことになっている人がいます(笑)

**小林:** 私はサークルではなく、「学生ブランドアンバサダー」に所属しています。その中でイベント企画や運営などを行っています。どのように学部を活性化していくのか、メンバー全員で話し合っ、実現できるかわからないようなイベントなども、和気あいあいと楽しみながら立案しています。

**鈴木:** 僕も学生ブランドアンバサダーに所属しています。会議の後にはみんなでご飯に行くなど、楽しんでいます(笑)

——アルバイトはしていますか？

**小林:** 居酒屋でアルバイトをしています。ちょうど1年経ったのですが、今のところ頑張っています！ バイト先は活気あふれる感じのお店で、接客に力を入れているので、お客様と世間話をすることもありますね。

**枝村:** 僕も居酒屋ですね。3年生になって課題や授業などが落ち着いてきたので、社会経験として、知人に紹介してもらって、アルバイトを始めました。

**榎本:** 私は課題で精一杯で、やっていないですね(笑)。ただ、人とのコミュニケーションの練習として、学生のうちにアルバイトをしておいたほうがいいのかなと思っています。

——周りの学生はどんなアルバイトをしていますか？

**小林:** 居酒屋はよく聞くと、カラオケボックスなどでアルバイトしている学生も多いかなと思います。

**枝村:** 僕もときどきやっているのですが、臨地実務実習の実習先でもある新潟市マンガ・アニメ情報館で、物販や品出しのアルバイトをする学生も多いですね。

——授業の日のお昼ご飯はどうしていますか？

**小林:** 私は10人くらいの仲良しグループで教室に集まって、コンビニやキッチンカーで買ってきたものを食べています。

**枝村:** キャンパスの1階で売っている唐揚げ弁当が、3年生

男子には人気です。ほぼ週5で唐揚げを食べていますね(笑)

**榎本:** 私はお弁当が多くて、食べながら制作作業をしているか、黙々と何かをやって、お昼休みを過ごしていますね。

**小林:** 私たちの仲良しグループは、空き時間があればいつも食べてばかりです！ キャンパス近くのわらび餅屋さんや和菓子屋さん、カフェなどにも出かけています。

学年が上がるなかで将来が見えてくる

——卒業後の進路は、どのように考えていますか？

**鈴木:** まだ1年生なのでフワフワしているのですが、卒業後は企業に就職して、その後、フリーランスとしても活動してみたいと思っています。

**小林:** 今行きたい会社はゲーム関連と、あとサンリオが好きなので、かわいいマスコットを作るような会社に就職したいと考えています。ただ、それらの会社は人気で狭き門なので、イラスト業界でも他の業界でも活かせる3DCGという優位なスキルを身につけたいと思っています。

**榎本:** 今の段階だと一番目指しているのはマンガ家ですが、マンガに関わる仕事であれば就職してみたいと思うので、印刷会社やグッズデザインの会社なども気になっています。

**枝村:** 入学したときはマンガ家になりたいと思っていたのですが、いろいろな勉強をしていくなかで視野も広がり、今は3DCGのアニメーションやモデリングに進むための就職活動をしています。臨地実務実習でアニメーションスタジオに行ったのですが、実習内容がとても楽しくて、実習先からもすごく評価していただいたので、そうした職種を目指そうと思いました。いつかアニメなどを作って、クレジットに名前を載せられたら理想だなと思っています。

自分が変わっていくのを肌で感じられる環境

——アニメ・マンガ学部を受験しようと思っている高校生へのメッセージを聞かせてください。

**小林:** 大きく2つあって、1つは自主性、もう1つは他人の意見を聞くことの大切さです。授業でもいろいろな知識は身につくのですが、自分で普段から絵を描いたり、先生に聞きに行ったりしている友人ほど画力がアップして

います。そうした自主性は重要です。それから絵を描くことでもグループワークでも、他人の意見に対して「いや、それは……」と反発ばかりしていると、成長は見込めません。素直に他人の意見に耳を傾けるのは大切です。

**榎本:** マンガは、デジタルで描けなくても入学してから学べるので、心配しなくても大丈夫です。必ずアナログでも描かないといけなくて、紙に描くの慣れておくことは大事なと感じています。あとは、β切を守れるかどうか。クオリティは大事ですが、就職を見据えても、β切に間に合わせる力は高校生のうちに身に付けておくといいと思います。

**鈴木:** インプットが必要なかなと思います。アニメやマンガ、ゲームなどをやったり、観たりして、いろいろな経験をインプットしてほしいです。入学後に絵を描くときに、いろいろなアイデアが思いつくと思いますし、自分の武器になると思います。

**枝村:** 絵を描いてください！本当に絵を描いてください！！このパンフレットを見た日から、毎日絵を描いたほうがいいと思います！



構成・文：石田雄大、野上勇人